

子ロバキッズクラブ育成支援課程

育成支援理念	<p>子ロバキッズクラブは児童福祉法に基づき、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、健全な育成を図りながら適切な遊びと生活ができる場とする。</p> <p>児童の権利に関する条約の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して育成支援を推進する。</p> <p>学校や地域の様々な社会資源との連携を図り保護者と連携して育成支援を行うとともにその過程の子育てを支援する役割を担う。</p>				
育成支援の基本方針	<p>子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により子どもの健全な育成を図ることを目的とする。また保護者と密接な連携を図り子どもに関する情報を家庭と共有することにより、保護者が安心して子どもを育て子育てと仕事等の両立できるように支援する。学校等の関係機関とも連携することで子どもの生活の基盤である家庭での養育を支援する。</p>	育成支援目標	<p>○子ども自身が見通しを持って主体的に過ごす。</p> <p>○子ロバキッズクラブでの活動を通して、日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得する。</p> <p>○信頼できる大人のもと悩みや相談事をするなかで自分の気持ちや意見を表現することを学び相手の気持ちを理解し思いやる気持ちを育む。</p> <p>○年齢や発達の状況が異なる集団を通して互いに助け合い、様々な考えがあることを知り互いに尊重する大切さを知る。</p>		
育成支援の柱	子どもたちの『主体性』を育む	<p>・子どもが子ロバキッズクラブでの過ごし方について理解できるように全体に共通する生活時間の区切りをつくり、柔軟に活用して子どもが放課後の時間を自己管理できる力を育む。</p> <p>・子どもたちが協力し合ってキッズクラブの生活を維持していくことができるよう、ミーティングの時間を通して意見を言い合い、年齢や発達状況も異なる子どもたちが一緒に生活していることに気づき尊重しながら考えていく力を身につける。</p>	地域との関わり	地域の特徴	<p>以前は商店街で賑わっていた町の一角に子ロバキッズは建っており、地域の交流は強い。子ロバキッズは、以前、和菓子屋で、隣はテラー屋であったが今は空き家となっている。</p> <p>地域の方々も子どもたちの成長を見守ってくださり地蔵盆など誘っていただき参加している。</p>
	子どもたちの『自己肯定感』を育む	<p>日々安心して過ごせる事、信頼できる大人に認めてもらう事、悩みや相談事ができる事で自分の気持ちが満たされることを大切にす。これによって自身の欲求と相手の欲求を同時に成立させる術を見出し、順番を待つこと、我慢すること、約束を守ること等平等の意味などを身につけ協力することや競い合うことを通じて自分自身を伸ばす力を育む。遊びを通して成功や失敗の経験を積み重ね他者との共通性と自身の個性に気づき、友達も自分も大切な存在であることを知る力を育む。</p>	育児相談	<p>子ロバキッズは障がい児事業も行っており、地域で暮らす障がい児を育てる保護者の方の相談を受けている。また障がい児でなく、子育てに不安を抱える保護者の方の相談を今後積極的に行う。</p>	
	保護者との関わり	<p>毎日の日々の様子の振り返りだけでなく、学習状況など保護者に伝え家庭と連携した関わりを強化できるようにする。</p>			

育成支援の内容

低学年	<p>子どもたちは、学校生活で読み書き計算の基本的技能を習得し日常生活に必要な概念を学習し係りや活動等の社会的役割を担い、自らの成長を自覚している一方で仲間関係や友だち関係ではその時の気分に大きく影響されることもある等まだ幼児的な発達の特徴も残している。また好奇心や興味が先だって行動するために怪我や衝動性が抑えられないこともある。職員にルールをしっかりと指導されながらきちんと気持ちを受け止めてもらい、見守られることで努力する力をつけ課題を達成し自信を深めることができるようにする。大人（保護者や職員など）の評価に気持ちが変化しやすい時期であるため、子どもが頑張ったことに対してきちんと褒めて後々の成長発達への意欲へとつなげていく。</p> <p style="margin-top: 20px;">低学年への配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児期の発達の特徴も見られる時期であることを考慮する。 ○放課後児童支援員等が身近にいて、子どもが安心して頼ることのできる存在になれるように心掛ける。 ○子どもは遊びに夢中になると時間や場所を忘れる事がある。安全や健康を管理するために子どもの時間と場所に関する意識にも目を届かせるようにする。 	中学年	<p>論理的な思考や抽象的な言語を用いた思考が始まる。道徳的な判断も、結果だけに注目するのではなく、動機を考慮し始める。同年代の集団や仲間を好み、大人に頼らず活動しようとする。言語や思考、人格などの子どもの発達諸領域における質的变化として表れる「9、10歳の節」と呼ばれる大きな変化を伴っており、特有の内面的な葛藤がもたらされる。</p> <p>他の子どもの視線や評価に一層敏感になり、大人に対する見方や自己と他者への意識や感情の発達の特徴の理解に基づいた関わりをする。時として子どもの気持ちを理解できる大人なのか冷静に見ている事もあるので、信頼に基づく関わりを心掛ける。</p> <p style="margin-top: 20px;">中学年への配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「9、10歳の節」と呼ばれる発達諸領域における質的变化を伴う事を考慮して、子どもの意識や感情の変化を適切に捉えるように心掛ける。 ○同年代の仲間との関わりを好み、大人に対する見方や自己と他者への意識や感情の発達的特徴の理解に基づいた関わりをする。
6歳から8歳		10歳	